

生物多様性を 守る理由

すべての生命の生存基盤を維持

多様な生物と、それをとりまく環境（水、大気、土、太陽光）は、生態系というしくみの中で、相互に深く関わり合い、つながりあっています。生態系は、人間をはじめ、すべての生きものにとって欠かすことのできない存在基盤です。酸素の供給や水の循環など、生態系が提供してきたさまざまな機能は、人類の技術をもってしてもすべて代用できるわけではありません。



野生の生きものたちも、私たち人間も生態系というしくみの一部です

文化を育む源

私たち日本人がもつ自然観は、自然の恵みに感謝する習わしや、自然と共生した生活様式、美意識や感性などに反映されてきました。そして、地域の特徴ある食文化や工芸、祭りなど、それらは地域の固有の文化等となって根づいています。こうした精神の基盤をつくる源として、多様な生物を育む豊かな自然が存在し、そこからの恵みをえてきたことが関係しています。



稲刈りなど農作物の収穫を祝う地域の行事などもあります

人間にとって価値あるものの提供

私たちの生活に必要なものの多くは、自然の恵みからもたらされています。肉や魚、農作物といった食料、抗生物質などの医薬品、木材をつかった家や家具等、これらはすべて動物や植物、微生物などによって提供されています。生物の多様性が守られているということは、私たち人間にとって将来の世代にわたり、こういった価値のあるものが提供される可能性を残しておくことにもなります。



これからも、未知の遺伝子の発見による新しい医薬品が開発される可能性があります

安全な生活環境の提供

生物多様性が守られ、健全な生態系が維持されている自然は、私たちの生活環境に安全をもたらしてくれます。例えば、健全な森林は、土砂の流出や崩壊を防いだり、土壌に水を貯えていることで安全な飲み水を提供するなど、私たちの生活に直結する機能がたくさんあります。このような機能を人工的に補おうとすれば、膨大な費用が必要となります。



生態系が破壊され、森林が土砂を保つ力がなくなってしまうと大きな災害が起きてしまいます

生物多様性とは

生物多様性とは、さまざまな環境に適応してさまざまな種が存在するという「種の多様性」、私たちの顔かたちがひとりひとり違うように、同じ種であっても地域差や個体差をもっているという「遺伝子の多様性」、東京湾の干潟、沖縄のサンゴ礁、大小の河川など各地にいろいろなタイプの自然があることを表す「生態系の多様性」の3つの多様性のことを意味しています。

生物多様性を脅かす3つの危機

日本の豊かな生態系を支える生物多様性は、いま大きく3つの危機に脅かされています。1つ目は「人間の活動や開発」、2つ目は「里地里山など人間の活動が縮小し、手入れができなくなったりしていること」、3つ目は「外来種などによって生態系が乱されること」です。また最近では、これらの危機に加えて、地球温暖化によって気候が大きく変わることにより、その変化に適応できなくなる野生の生きものがでてくるおそれも指摘されています。

日本の野生の生きものたちがあぶない

日本に生育・生息する野生の生きもののうち、ヘビ等の爬虫類、カエル等の両生類、河口や川の魚などの汽水・淡水魚類の3割強、クマなどの哺乳類や維管束植物の2割強、ワシやタカなどの鳥類の1割強が絶滅のおそれがある種に分類されています。また、生息地の分断により、地域ごとに野生の生きものの絶滅が心配されています。

企業が生物多様性に取り組む意義

なぜ企業の生物多様性の保全への取り組みが期待されるのでしょうか。企業は、原材料調達をはじめとした事業活動や、工場や事業場などの土地の利用等を通して、直接的・間接的に生物多様性に大きな影響を与えています。また、私たちの生活や事業活動は生態系によってもたらされる、安全な生活環境や生物資源に大きく依存しており、過剰な利用や開発等が行われると、持続不可能になってしまうおそれがあります。生物多様性の保全に取り組むことは、長期的な観点から、リスクを低減し、持続可能な企業経営の安定化を図ることにともつながり、重要なことと言えます。